

# 一般社団法人日本遺伝性腫瘍学会 2019 年度第 2 回理事会 議事録

日 時：2019 年 11 月 1 日（金） 11:00～14:00 場 所：AP 品川アネックス ルーム D

出席者：理事長 富田 尚裕

副理事長：田村 和朗 石田 秀行

理 事：青木 大輔 赤木 究 石川 秀樹 大住 省三 川崎 優子 田中屋宏爾 玉木 康博  
田村智英子 三木 義男

監 事：武田 祐子 松原 長秀

（寺本司法書士陪席） 事務局：飛松

欠 席：鈴木 眞一

議 事：

## 【報告・審議事項】

### 1. 事務局報告

事務局飛松より庶務報告、新入会者リスト（2019/9/30 時点）について資料提示・説明があった。

司法書士の寺本先生より、法人化による法務局届手続きについての概要説明があり、本日、出席の理事・監事は会議後、2018 年・2019 年評議員会議事録に押印し、欠席理事分も後日集め、手続きを進めていく。

また、寺本先生には引き続き陪席いただき、この後の選挙細則についてもご意見を伺うこととした。

### 2. 各種委員会報告・審議

①総務委員会：石田理事より医学会加盟申請について申請資料提示・報告があった。今年も加盟申請を行い、結果は 2020 年 3 月となる。もし次年度も申請が必要になった際は、提出資料を理事に回覧し、国際性の部分や関連する学会などについての確認・追記を依頼することとした。

・評議員選挙について立候補締め切り後、10 月 27 日に選挙管理委員会を開催し、書類確認を行った。

100 の届け出があり、3 名が期日後到着、書類不備のため、97 名にて被選挙人リストを確定した。

立候補リスト確認、開票までのスケジュールの確認を行い、同日、被選挙人リストを公開することとした。

投票用紙のマークシート確認を行い、いくつか修正点の指摘があり、修正後、印刷・投票用紙発送をおこなうこととした。

また、評議員選出細則改定案について提案があり、意見交換を行い、寺本司法書士の指導のもと、下記の通り決定し、理事会承認を得た。同日付で細則改定を行い、HP を更新することとする。

また、今回の評議員選挙での公示の定数の解釈について、下記の文言を追加することとした。

「ただし、同点者の取り扱いについては、定款等の規定に反しない範囲で、50 名を超えても当選といたします。」

細則変更：下線が変更・追加部分

第 8 条（評議員選挙管理委員会）

#### 【改定前】

評議員の互選により評議員選挙管理委員 3 名を選出し、理事長が委嘱し評議員選挙管理委員会を組織する。

#### 【改定後】

評議員の互選により評議員選挙管理委員 3名以上 5名以内を選出し、理事長が委嘱し評議員選挙管理委員会を組織する。

第 10 条（開票）

【改定前】

開票は評議員選挙管理委員全員が立ち会いの上行う。

【改定後】

開票は、原則として評議員選挙管理委員全員が立ち会いの上行う。ただし、欠席の場合は委任状の提出でも可とする。

また、理事に選出された場合、評議員から抜けるべきではないかとの意見があり、今後検討することとした。

②財務委員会：青木理事より次年度の予算提出について依頼があった。2020年1月中旬までに、新規事業を予定している委員会は事業内容と合わせて提出をお願いしたい。

事務局から前回の予算書と合わせて依頼メールを送ることとする。

③将来検討委員会：富田理事長より今後の評議員改選について、検討して、次回理事会に提案したい旨、説明があった。

④会則委員会：鈴木理事：欠席のため、なし。

⑤専門医・HTC/FTC 制度委員会

田中屋理事より、専門医制度委員会から下記の報告があった。

- ・委員メンバーの件について、古屋充子先生（横浜市立大学医学部 病理）、吉村章代先生（愛知県がんセンター中央病院 乳腺外科）2名の補充を行った。
- ・専門医名称を2019年6月13日評議員会（社員総会）終了後に「遺伝性腫瘍専門医」に変更した。
- ・2019年度専門医試験を2019年12月22日（日）に一橋講堂（東京）にて実施予定。受験申請者は80名。

川崎理事より HTC/FTC 制度小委員会から下記の報告・審議があった。

- ・2019年度 HTC/FCC 制度小委員会委員を下記メンバーとする。  
川崎優子（委員長）、有賀智之、今井芳枝、大川恵、織田信弥、首藤茂、田中屋宏爾、鳥嶋雅子、吉村公雄、田村和朗（アドバイザー）、武田祐子（アドバイザー）
- ・家族性腫瘍コーディネーター名称を2019年6月13日評議員会（社員総会）終了後に「遺伝性腫瘍コーディネーター」に変更した。
- ・2019年度遺伝性腫瘍コーディネーター認定試験を2019年11月17日（日）に東京八重洲ホールにて実施予定。受験申請者は11名。関係者は試験監督等で田村和朗副理事長、田中屋宏爾委員長、川崎優子小委員会委員長、事務局1名が出席予定。
- ・遺伝性腫瘍コーディネーター習得すべき内容（案）について資料提示・審議を行い、いくつかの内容訂正の指摘があり、訂正分を承認するとし、HPへ掲載することとした。
- ・家族性腫瘍カウンセラーの更新資格（細則改定案）について、遺伝性（家族性）腫瘍セミナー主催者が受講枠の不足などにより、受講しなかったため、家族性腫瘍カウンセラーの更新資格が得られない事例が発生していることを受け、遺伝性（家族性）腫瘍セミナー主催者はセミナー修了と同等の資格を与える形に変更してはどうかとの提案があり、審議の結果、承認することとした。講師担当者への修了資格については、今後検討していくこととした。

また、第6章 セミナー、第7章 生涯教育の項目は削除し、各々、遺伝性腫瘍セミナー委員会、学術・教育委員会にて担当していただく点についても、変更承認した。

同日付けで、細則を変更し、HP も更新することとした。

⑥遺伝性腫瘍セミナー委員会：田村和朗理事より遺伝性腫瘍セミナー開催報告・開催案内があった。

- ・第22回前期遺伝性腫瘍セミナーは2019年8月16日(金)～18日(日)にがん研有明病院、ホテルサンルート有明にて開催し、受講者数は217名、内、証明書発行は214名であった。
- ・第22回後期遺伝性腫瘍セミナーは前期と同カリキュラムで2020年3月6日(金)～8日(日)に国立がん研究センター中央病院をメインとして、TV会議システム利用し、国立がん研究センター東病院をサブ会場として開催予定。募集数は中央病院150名、東病院50名の200名を想定している。
- ・第1回日本遺伝性腫瘍学会アドバンスセミナーを2019年11月2日(土)にホテルサンルート有明で実施予定。受講者数は134名となっている。
- ・次年度の予定として、第23回前期遺伝性腫瘍セミナーを2020年9月4日(金)～6日(日)に：一般財団法人 高知県教育会館 高知城ホールで開催の方向で進めている。5日(土)のロールプレイは高知大学でバス移動を予定しており、募集予定数は230名。実行委員長は高知大学 杉本健樹先生にお願いしている。

⑦編集委員会：石田理事より下記の件につき、報告および審議を行った。

- ・学会誌名称変更に関する編集委員会の意見聴取について報告があった。メリット・デメリットについての意見なども提示され、意見交換を行い次回社員総会で変更する方向で進めることとする。  
なお、英語の意味なども理解したうえで、変更する必要があるなど意見もあり、「遺伝性腫瘍」と「家族性腫瘍」の違いについて、三木理事に「解説」原稿執筆を依頼し、学会誌へ掲載することとした。
- ・現時点での投稿勧誘状況、20巻1号掲載の特集ラインアップおよび投稿論文進捗状況について資料提示および報告があった。
- ・バリエントレポートの原稿受付について、赤木理事より資料提示・説明があった。意見交換を行い、一旦提示されたフォーマットで進めることとし、その他気がついた点があれば、赤木理事へ連絡をすることとし、フォーマットは適宜アップデートしていくこととする。また、HP掲載の際には、「不明点があれば、編集部にお問い合わせください」の1文を追記することとした。

⑧学術・教育委員会：三木理事より下記報告があった。

- ・活動報告：学術・教育委員会主催の市民公開講座の定期的開催を予定し、第1回目は平沢委員長が中国四国地方で企画。企業内での講演も考えていきたい。
- ・遺伝性腫瘍のピアサポート制度についての報告  
クラヴィスアルクス理事長 太宰牧子氏より遺伝性腫瘍のピアサポート制度構築に関する要望がきており、資料確認、意見交換の結果、具体的な事はまだ決まっておらず、学会として公的に認めるのはNGとし、慎重に対応をしていくこととした。
- ・日本がん治療認定医機構がん治療認定医の申請および更新の条件に対する申し入れ要望書について資料確認を行ったが、もう少し審議が必要ということで、メールでの継続審議とした。
- ・矢形寛委員のご逝去にともなう新委員の選定について、学術・教育委員会という観点から、暫定家族性腫瘍指導医から選択するのが望ましく、また乳腺科医と婦人科医がメンバーとして不在であるという観点から選定したいとのことで、理事会としては了承し、メンバーが決まったら理事会へ報告を行う。

- ⑨倫理審査委員会：川崎理事より Li-Fraumeni 部会からの倫理審査を行った旨報告があった。また矢形寛先生ご逝去に伴う委員の補充について検討中であることが報告された。
- ⑩ガイドライン委員会：特になし
- ⑪利益相反 (COI) 委員会：特になし
- ⑫国際委員会：赤木理事より学会とリンクして海外との交流を活発にしていきたい旨説明があった。遺伝カウンセラーの教育も行っていきたい。
- ⑬遺伝カウンセリング委員会：特になし
- ⑭広報委員会：玉木理事より HP 変更更新について報告があった。英文化を早急に進めたい旨報告があった。また、過去のプログラム pdf を集約して掲載してはどうかとの提案があり、進めることとした。それに伴い、今後、演題募集時に英文情報も集めていく方向で検討する。
- ⑮ゲノムデータベース委員会：赤木理事よりバリエーションデータを収集している旨報告があった。現在 100 例程登録済で、残り約 170 も近々登録完了予定となっており、その後、バリエーションレポートの登録を行う。
- ⑯作業部会委員会：石川理事より 7 月 18 日付で HP 上にて部会を募集しているが、現在のところ応募は無。現在活動中の Li-Fraumeni 部会については、3 年間の追加活動が認められており活動継続中である。また、委員について矢形先生ご逝去に伴い、慶應義塾大学の阪埜浩司先生、聖マリアンナ医科大学東横病院の古畑智久先生に委員に就任いただくこととなった。
- ⑰遺伝性腫瘍研究グループ連絡協議会：事務局担当の石川理事より厚生労働省の方との面談を行うなどの活動について報告があった。

#### その他

- ・青木理事より、日本産科婦人科学会との情報共有として、重篤な遺伝性疾患に関する着床前診断について患倫理委員会で再議論がされている旨案内があった。本会としての見解については青木理事と田村智英子理事にて今後検討していく。
- ・大住理事より四国がんセンター主催の第 10 回遺伝カウンセラーのための実践集中講座への後援依頼があり、資料確認を行った。審議の結果、承認することとした。
- ・石田理事より矢形 寛先生の病院葬が 11 月 8 日に、樋野興夫先生主催の追悼記念講演会が 12 月 17 日に川越にて開催される旨のアナウンスがあった。

### 3. 学術集会関係報告

- ①第 25 回学術集会報告：青木会長より第 25 回学術集会開催報告、会計報告があった。過去最多の 1,002 名の参加者であった。
- ②第 26 回学術集会準備報告：玉木会長より 2020 年開催予定の第 26 回学術集会準備状況報告があった。2020 年 6 月 19 日、20 日にシティプラザ大阪ホテルアンドスパにて開催予定で、テーマはチームで支える。とした。
- ③第 27 回学術集会準備報告：赤木会長より 2021 年開催予定の第 27 回学術集会準備状況報告があった。2021 年 6 月 18 日、19 日に埼玉会館にて開催予定。
- ④第 28 回学術集会準備報告：田中屋会長より 2022 年開催予定の第 28 回学術集会準備状況報告があった。2022 年 6 月 17 日、18 日に岡山コンベンションセンターにて開催予定。

なお、学術集会会長を2名会長制で開催の場合、担当いただく会長にもCOI自己申告をお願いする。

また、倫理審査、COIについては演題募集時に明示することとし、2020年の第26回から実施する。

その他、学術集会の開催について、会長の手順書の作成が必要ではないかとの提案があり、事務局にて検討することとした。

4. 臨床遺伝専門医制度委員会 蒔田委員長からの書状について資料提示・意見交換を行った。

臨床遺伝専門医制度委員会委員が田村和朗理事から田中屋理事へ交代となっており、次回委員会には田中屋理事が出席の予定。対応については理事長、副理事長、田中屋理事に一任し、次の報告を待つこととする。

5. 青木理事より学術集会会計を学会へ組み込み、連結決算とするかどうかについて、次回理事会で議論を行いたい旨、提案があった。次回理事会で再度検討することとした。

6. 次回理事会日程について2020年2月～3月で事務局にて至急アンケート調査を行い、決定することとした。